

WHAT

ポーランド・ワルシャワ大学

文教育学部 言語文化学科
グローバル文化学環 4年
中坪佑香

日本ではなかなか馴染みのない国、ポーランド。留学に行くことになった私に、一番多かった言葉が「ポーランドってどこだっけ？」でした。中世の時代にヨーロッパ最大の王国として栄華を誇ったその国は、時の流れとともに、列強各国による国土分割、国の消滅、ナチスの侵略・統治、ソ連による共産主義化、資本主義への体制転換、EU加盟と、世界史上でも類を見ない波乱万丈の道を歩むことになります。アジアでは歴史が現在の国際関係や多文化共生に大きな影響を与えている。では、他の地域ではどうなのだろうか？「辛苦の歴史」とEUという「共存の現在」を持つポーランドに惹かれ、ワルシャワ大学への交換留学を希望したのが、今から約2年前、大学2年生のときでした。

では、ポーランド人とはどのような人たちなのか。私自身は、親切な人が多い国だと感じました。さて、肝心の大学生活の方に話を進めます。お茶の水女子大学からの交換留学生は、ヨーロッパの学生の留学システムであるERASMUSの学生としてワルシャワ大学に受け入れられます。そのため、授業中に会うのはほとんどがヨーロッパ人。授業もEUに関するものが特に充実しており、何より、授業を通してEU市民であるクラスメイトと意見交換できるのが楽しかったです。受講する授業は、上記のERASMUSのもの他に各学部・学科で開講されるコース、POLONICUMというポーランドの言語・文化を学ぶコースの中から選択できます。POLONICUMでは、週に2回のポーランド語の授業の他、ポーランドの歴史について学ぶ授業を取っていました。私の取っていた授業は、第二次世界大戦や体制転換直後のポーランドを描いた映画を観て、歴史を学ぶとい

う内容だったのですが、自分一人では知り得なかったであろう映画を、現地人の先生の解説と共に観られるということで、大変興味深かったです。映画の内容は暗いものが多かったのですが、授業終了後は毎回何とも言えない気持ちになるのですが、それでも毎週楽しみに通っていました。

日本ではなかなか馴染みのない国、ポーランド。そこには、2年前の私が考えていた以上に、深い歴史と、日本とは違う文化がありました。特につらかったのは冬です。ズシンと身体に響く寒さ、午後3時から沈み始める太陽、「寒い・暗い・長い」の三十苦の冬は、私から外出する気力を奪い、ひたすらに考える時間を与えました。その時に、自分と向き合い、ひたすら考え、出した答えやその道のりで感じたことが、留学生活の何よりの収穫だと思っています。また、最初に上げた学問的な疑問に対しても、今の時点での答えを得ることができました。留学は終わりましたが、逆に言えば終わったのは留学だけで、私の勉強も、生活も、まだまだ続きます。ポーランドで学んだことを胸に、留学前からのテーマも、留学中に得たテーマも、更に突き進めていこうと考えています。

